

愛中だより



学校教育目標

ゆい
「結の心」

相手を敬い、優しく思いやる心

じん
「韌の心」

柔軟な強さを持つ心身

学校ブログ、日々更新中！！



『心つながるコミュニケーション』

校長 藤本 謹吾

旧年中の学校教育に対する保護者・地域の方々の応援・支援に心より感謝申し上げますとともに、あらためまして2026年もよろしくお願ひいたします。

さて、今年の正月も「東京箱根間往復大学駅伝競走」に多くの感動や元気をもらいました。青山学院大学による史上初「2度目の3連覇」(※前回は第78~81回の4連覇)、駒澤大学の10区佐藤選手のラストランによる区間新記録樹立、5つの区での区間記録の更新、9→10区の中継所で襷をつなげずにスタートしていく選手とその後に駆け込んでくる選手の姿、アナウンスでは父親からの給水と言ったけど、今受け取れていなかったのでは?と心配になる選手。選手だけではなく、走ることができなったチームメンバーのサポートや、限られた時間しかない中での運営管理車からの監督の声掛け・・・とにかく2日間のあらゆるところに心を動かされました。

そんな「東京箱根間往復大学駅伝競走」が大好きで、昨年に続けて今年も3日復路の8区、茅ヶ崎の134号線まで行き、特定のチームを応援するわけではなく21選手の力走を実際に見て応援してきました。

「人を応援するときに『がんばれ』というのはよくない」ということを聞いたことがあります。皆さんはどうでしょうか。「がんばっているのに『がんばれ』はないだろう」とか「所詮人ごとにしか感じない」からということなのだと思います。

しかし、目の前を素晴らしいスピードでさーーっと通り過ぎていく選手たちを応援するには、拍手と「がんばれ!」の声かけしかできない・・・のは私だけではなく、集まった多くの人がそのようでした。でも、その拍手の音、言葉に感じられる気持ちが、うまく言えないですが「本物・本気」で、それが一体となって「応援」となり、走路のいたるところで選手に届いているのではないかと感じました。

言葉はもちろん大切ですが、そこに込められた気持ちが伝わるように言葉を使うことが大事なのだと改めて思います。

2026年が始まり、学校は3学期というまとめの時期を迎えました。学校教育目標「結の心・韌の心」の引き続きの育成を目指し、日々の学校生活の中で気持ちが伝わる言葉を大事にしながら生徒同士、生徒と教職員、教職員同士のコミュニケーションを図って、しっかりと令和7年度を締め括り、4月からの新しい生活につなげていきたいと思います。

保護者、地域の皆様方の変わらぬご支援・ご協力を2026年もよろしくお願ひいたします。



進路決定に向けて

3学年主任

公立・私立高校の出願を終え、三年生はいよいよ入試本番を迎えます。自分の進路と向き合い、仲間たちとともに支え合いながら、積み重ねてきた努力があります。その一歩一歩が未来を拓く力になっていきます。不安もあると思いますが、当日は自分を信じ、力を出し切ってほしいと思います。



職場体験学習を振り返って

2学年主任

11月6日（木）、7日（金）に、キャリア教育の一環として、2学年生徒対象に職場体験学習を実施しました。事前に「働くとは」等しっかり考え、自分のテーマを見つけた上で当日の体験に臨みました。初めての事業所、慣れない仕事なため、スタートは緊張していたようでしたが、地域・社会とのつながりを感じながら事業所の方々のサポートのもと、2日間伸び伸びと体験することができたようです。将来自分らしい生き方を考えるためにも、大変有意義な学習となりました。

お世話になった各職場の方々、保護者のみなさま、本当にありがとうございました。



サイバーセキュリティ SNS 講習会

生徒会担当



中学生が小学生に SNS などネットとの正しい付き合い方について、講師となって伝える講習会にむけて、8月28日（木）神奈川県警本部のサイバーセキュリティ対策本部対策係の情報セキュリティアドバイザーの方をお招きし、2年生の生徒会本部生徒、リーダー養成会参加生徒が、学習しました。AI（人工知能：思考、学習、行動ができる機械をつくるコンピュータサイエンス）や情報フィルター（何か検索したりするとそれに類する情報がどんどん優先的に表示されるようになる仕組み）による影響なども考えさせられました。生徒たちがしっかりと学び、この情報化社会を確かな目をもって生きていけるように育ってほしいと思います。

火災想定の避難訓練

安全防災担当

火災を想定しての訓練を 12 月 10 日(水)に実施しました。 今回は、消防訓練を入れた避難を行いました。生徒はとるべき行動を考え、避難経路を頭に入れた上で、担任の先生の指示通りに避難することができました。

自分の身を守るためには、普段と違う行動をすべき場面がたくさんあります。非常時でも、正しい判断ができる生徒の育成に、今後も努めたいと思います。

